

## 4 高槻市の景観類型と課題

### 4-1 高槻市の景観類型

本市は、北部山間から南部の淀川低地に至る北高南低の地勢にあつて、芥川等の河川が盆地や峡谷、扇状地等多様な地形を刻み、森林、溪流、里山と集落等、自然と人が織りなす多彩な自然的景観が形成されています。

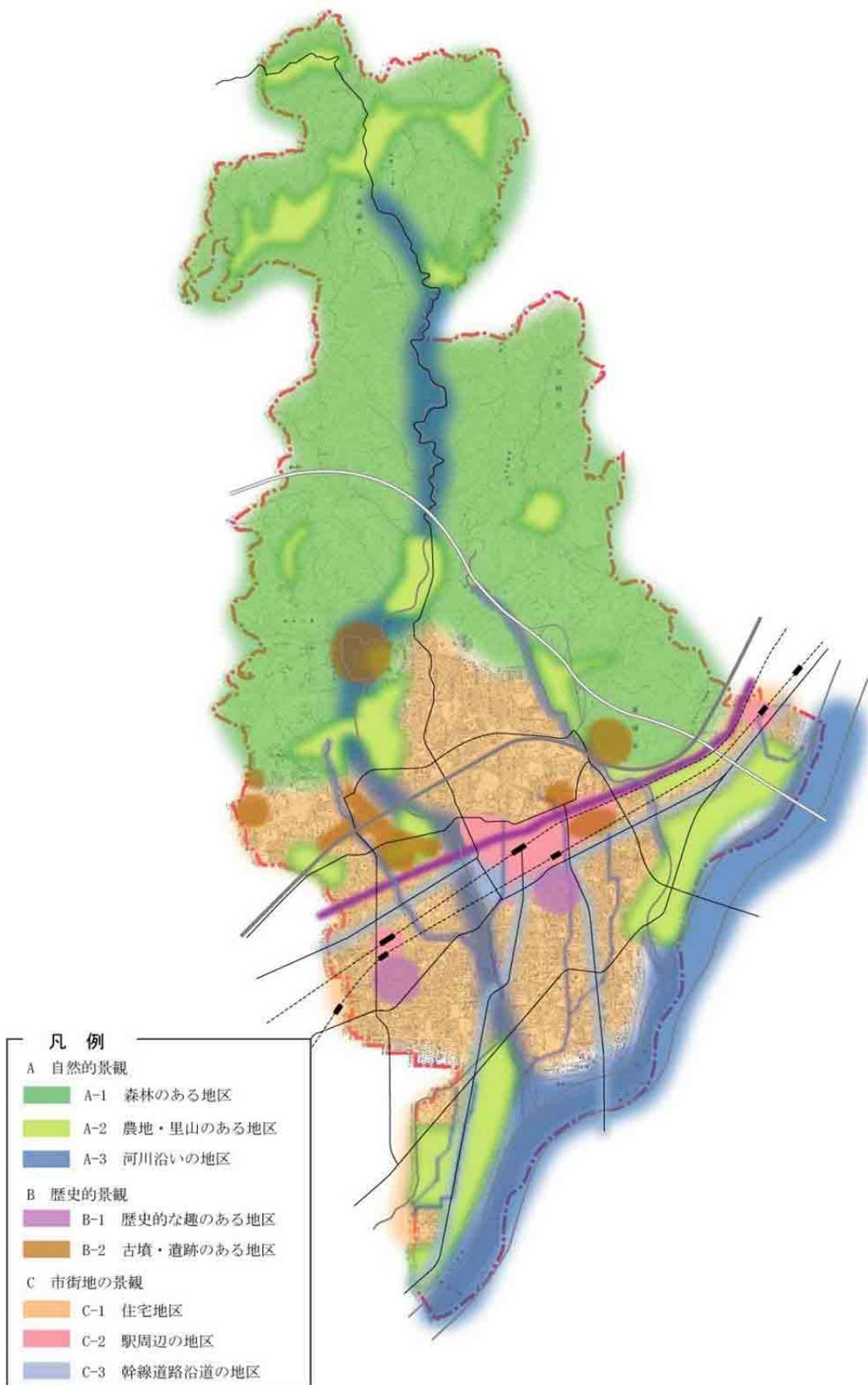
また、長い歴史を物語る今城塚古墳をはじめとする遺跡群や、街道筋、旧高槻城下、富田旧寺内町等に残された古い町並みは、重層する歴史的景観を形成しています。

さらに、36万人の中核市として、市街地を中心に各種の都市施設の維持・整備が進められており、新たな市街地景観が形成されつつあります。

このような高槻市の地形的特徴や歴史的経緯等から、高槻市は「自然的景観」、「歴史的景観」、「市街地景観」の3つを軸とした景観類型に分類できます。

高槻市の景観類型

自然的景観	森林のある地区	北摂連山
	農地・里山のある地区	丘陵部に点在する盆地 山間部の盆地 淀川低地の農地
	河川沿いの地区	淀川・芥川・桧尾川・女瀬川 その他主要水路
歴史的景観	歴史的な趣のある地区	西国街道沿いの地域 富田地域、高槻城跡周辺等
	古墳・遺跡のある地区	今城塚古墳周辺、阿武山古墳周辺等
市街地景観	住宅地区	—
	駅周辺の地区	JR、阪急駅周辺
	幹線道路沿道の地区	国道171号、170号 府道大阪高槻線



高槻市の景観類型

## 4-2 景観類型別の現状と課題

### A 自然的景観

#### A-1 森林のある地区

市域の北部にある北摂連山の山並みや緑豊かな森林は市街地の背景となり、市民が愛着を感じる心なごむ景観を形成しています。

特に、アンケート調査等からは、鉄道の車窓や街中から見える山並みの風景に対する市民の評価は高く、多くの人々の目に触れることもあって、高槻市のイメージ形成にも大きな役割を果たしています。

また、森林は景観要素としての役割のみならず、多くの動植物の生息空間、水源のかん養、地球環境問題の緩和、都市の貴重なレクリエーション空間等、多様な機能を担っています。

一方、健全な森林の維持と密接に関わる林業に対する現状も厳しく、木材価格や担い手不足の問題等が生じています。しかし、山間部での各種開発や森林の緑と調和しない色彩の屋外広告物等に伴い、山並みの景観が損なわれているところも見受けられます。

さらに、今後は新名神高速道路や（仮称）高槻東道路等大規模な公共施設の整備事業が予定されており、山並みの景観との調和が求められています。



市街地から見える山並み



榎田地区の森林

## A-2 農地・里山のある地区

丘陵部に点在する盆地では、周囲の自然環境に溶け込むように形成された原、成合、服部等の農村集落が緑あふれる里山と集落が織り成す景観を見せています。特に、山間部の盆地に形成された檜田では、周囲の山林と農地によって、潤いのある癒しの景観を見せています。

南部の淀川低地は、農地が広がる伸びやかな景観を形成し、三箇牧地区の農地では休耕田を利用したコスモス畑やレンゲ畑が、多くの人々の憩いの場として親しまれています。

しかし、農家人口は年々減少し、高齢化による担い手不足によって十分に管理されない農地や耕作放棄地が発生し、景観が損なわれている場所も見受けられます。また、背景の里山と調和しない建築物や工作物、屋外広告物も見受けられます。



原地区の里山風景



檜田地区の農地のある風景

## A-3 河川沿いの地区

淀川、芥川等の主要河川沿いは、見通しのきく開放感あふれる景観が続き、市民の安らぎや憩いの場として親しまれています。

特に市域を南北に流れる芥川は、親水空間の整備も行われ、「このぼりフェスタ 1000」等のイベントが開催される等、市民生活との関わりも深まっています。

また、芥川上流の摂津峡は、四季を通じて自然景観が楽しめる地として市民からも親しまれています。

市域の南を流れる淀川流域には広大なオープンスペースが広がり、市民のレクリエーションの場となっています。国でも、多自然型川づくりや河川空間を楽しむ利用者の視点を考慮し、親水性に富んだ河川整備が進められています。

また、市内の水路においても市民に親しまれる水路としての整備が行われてきました。

しかし、河川沿いの中高層建築物や屋外広告物によって視界の連続性が阻害されたり、山並みへの眺望や広がりのある河川景観が損なわれる場所も見受けられます。



芥川と北摂連山



市民の憩いの場となる親水空間

## B 歴史的景観

### B-1 歴史的な趣のある地区

西国街道沿いや富田地域、高槻城跡周辺では、往時の面影を受け継いだ建築物や道標等が数多く残り、歴史的な趣を感じさせるまちなみを形成しています。

富田地域では、今なお伝統的な産業としての酒造りが営まれ、地域の文化も継承される等、かつての歴史的なまちなみの風情が感じられます。

また、普門寺、本照寺をはじめとする指定文化財や町家等が存在し、歴史的な営みを伝える重要な役割を果たしています。

一方、市内の社寺についても、地域の歴史・文化を伝える身近な資源として重要な役割を果たしています。また、樹林保護地区や保護樹木に指定されているところも多く、街中の憩いの緑ある空間を提供しています。

しかし、社寺をはじめ歴史的な趣のある景観を構成する要素である建造物のうち、指定文化財として保存されているのは一部であり、古民家や町家等についても、生活利便性の問題や維持管理の困難さから日々失われる状況に直面しています。

また、歴史的なまちなみ保全に向けた地域の価値観が市民に共有されず、歴史的景観に対するデザイン上の配慮を欠いた建築物や屋外広告物等、種々の阻害要素も見受けられます。



歴史の風情を残すまちなみ  
(城北町)



富田の造り酒屋



普門寺（重要文化財）

## B-2 古墳・遺跡のある地区

市内に所存する数多くの古墳や遺跡は、先人の暮らしをたどることのできる貴重な歴史遺産であり、良好な歴史的景観の形成にも大きく寄与しています。

また、丘陵部にある古墳は眺望の場として、市街地に近接する古墳は地域の緑ある空間としても重要な役割を果たしています。

なかでも史跡今城塚古墳は、淀川流域最大の前方後円墳として知られ、その歴史的価値に加え、貴重な緑の空間を地域に提供しています。

三島平野の最奥部、摂津峡とその東側に位置する芥川山城跡周辺は、優れた風致景観を形成し、芥川をはじめ淀川流域への眺望や山歩きの散策コースとなっています。

しかし、史跡指定を受けていない古墳や遺跡は、所有者の協力により保存を図るほかなく、開発によって消失の危機に直面しているものもあります。また、指定においても周辺環境を含めた一体的な整備に至らなかったことから、遺跡そのものの歴史的価値の維持や保全に留まり、雰囲気や損なう建築物や屋外広告物等によって、周囲に埋没することによって、景観の悪化に繋がっているケースも見受けられます。



史跡今城塚古墳



安満宮山古墳

## C 市街地の景観

### C-1 住宅地区

市北部の住宅地では、敷地規模が大きくゆとりのある戸建住宅が立ち並び、整備された歩道と管理が行き届いた植栽等によって整然としたまちなみ景観が形成されています。

しかし、建物の更新に伴う敷地の細分化や植栽の喪失によって、まちなみ景観の統一感が失われているところもでてきています。また、居住者の高齢化に伴う都心部への流出等で十分に管理されない空き家や空き地の発生が、景観を阻害する一因ともなっています。

一方、中・南部では、利便性や地理的条件等から、人口急増期に小規模開発が数多く行われ、密集度が高い住宅地が形成されるとともに、まとまった規模の公営住宅団地の立地等がみられます。

その結果、まちなみとしてのまとまりに欠ける地域や緑が少ない地域も見受けられます。これらの地域でも、建物の更新期を迎え、周辺環境から突出した意匠、構造、色彩の建物等もみられ、今後、良好なまちなみ形成を図るためのルールづくり等が求められています。

また、公営住宅団地でも老朽化が目立ってきています。



北部の住宅地



南部の住宅地

## C-2 駅周辺の地区

JR や阪急の鉄道周辺は、様々な都市機能が集積する市街地が形成されています。

例えば、JR 高槻駅の南北では、市街地再開発事業によって都市拠点としての整備が進められ、市民から高い評価を得ています。一方、阪急高槻市駅周辺では、店舗や飲食店等が面的に展開し、賑わいのある繁華街の景観を形成しています。また、駅周辺にも「緑」が多いことが高槻市のひとつの特徴でもあり、JR 高槻駅北側には上宮天満宮、東側には八丁松原や京大農場、阪急高槻市駅南側には城跡公園や野見神社等の「緑」が存在しています。加えて、高槻ジャズストリートや高槻まつり等、中心市街地のイベントが風物詩として市街地の賑わいのある景観を演出しています。

しかし、総体的には樹木や草花類は少なく、路上に放置された自転車やほみ出した商品・看板等も見られます。さらには、都市景観への配慮が少ない歩車道や条例に反した屋外広告物、景観を阻害する電柱・電線等、都市の玄関口としての風格や魅力を損なう場所も見られます。



JR 高槻駅前



京大農場

## C-3 幹線道路沿道の地区

国道 170 号や 171 号、府道大阪高槻線等の広域的な幹線道路は交通量も多く、都市間を結ぶ主要な交通軸となっています。その沿道には、敷地規模の大きい工場やロードサイド型の店舗、大規模ショッピングセンター等の施設が立地しています。

しかし、広域的な幹線道路の一部区間では、道路幅員が狭く緑の少ない沿道景観となっています。また、市街化調整区域の沿道では、資材置き場等美観的配慮に欠ける場所も少なくなく、景観に対する市民の評価も総じて低くなっています。

加えて、施設規模を超えた巨大で様々な色彩の屋外広告物が雑然とした印象を与え、背後の山並みへの眺望を阻害している場所も見受けられます。



ロードサイド型店舗

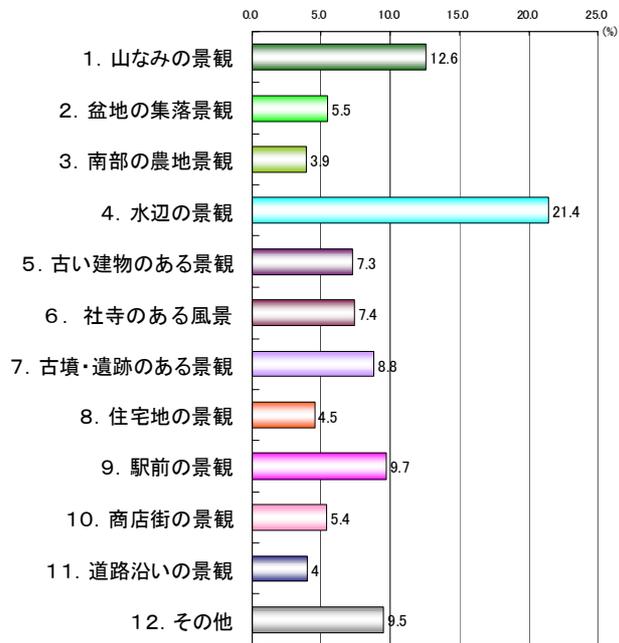


沿道の配送センター

『 資 料 ～ 市民アンケート結果より 』

平成 19 年度に実施した景観アンケートをみると、市民は水辺の景観を“高槻らしい景観”ととらえており、特に、摂津峡については関心が高いようです。また、山並みや盆地・農地景観等自然的な景観が、高槻の特徴だと認識されていることが分かります。

その他、近年再開発された駅前や古墳・遺跡のある景観等も特徴として認識されており、多様な考え方があることもうかがえます。



高槻らしい景観